(91)PI-MMD-0018U

＊2015 年 1 月改訂(第 2 版)
2014 年 9 月作成(第 1 版)

PI-MMD-0018U

承認番号：22500BZX00369000

機械器具（74）医薬品注入器

高度管理医療機器　　ポータブルインスリン用輸液ポンプ　　JMDNコード:35983000

特定保守管理医療機器

メドトロニック　ミニメド　600 シリーズ

【警告】

1. 併用医療機器

本品は、専用のリザーバ及び輸液セットと使用すること[専用リザーバ及び輸液セット以外と使用した場合、流量精度が保証できなくなるため。]。

2. 使用方法

- ポンプに表示されたセンサグルコース値に基づいて、インスリンの注入量を決定しないこと。ポンプに表示されたセンサグルコース値は、自己血糖測定を行うタイミングを知らせるものであり、治療を決定するためのものではない。
- ポンプに表示されたセンサグルコース値に異常が認められた場合は、自己血糖測定を実施し、血糖値に基づいてインスリンの注入量を決定すること。
- ポンプは、可燃性の麻酔雰囲気下で使用しないこと。
- 本品は、担当医師が処方した 100 単位/mL のインスリン以外の薬剤と使用しないこと。
- 輸液セットが身体に接続されている状態で、リザーバをポンプに抜き差ししないこと[インスリンが過剰に投与されたり、過少に投与されたりすることによって、低血糖又は高血糖になる危険性がある。]。
- 糖尿病の強化インスリン療法は、低血糖(低血糖症)の発生率の増加と関連があることに留意すること。
- インスリンポンプ療法は、速効型又は超速効型のインスリンのみを使用するため、インスリンが注入されないとすぐに糖尿病性ケトアシドーシス(以下「DKA」という)に陥る可能性があるので注意すること。

【禁忌・禁止】

1. 適用禁忌

- 1 日 4～6 回の自己血糖測定及び病院での定期検診を実施する意思がない、主治医との密接な連絡を維持することを望まない、又は実施が不可能な患者は、本品を使用しないこと[低血糖症、高血糖症及び DKA を避けるため。]。
- 視覚又は聴覚が正常でない患者には使用しないこと[本品の操作にはスクリーンに表示される文字及びポンプが発する警告音を聞き取れる必要がある。]。

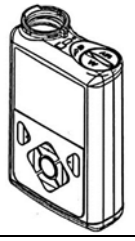
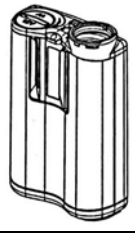
2. 使用方法における禁忌・禁止事項

- ポンプを蒸気に曝露したり、滅菌したりしないこと。
- 本品を分解したり、改造したりしないこと。
- マンガン乾電池を使用しないこと。

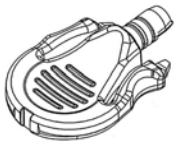
【形状・構造及び原理等】

［形状及び寸法］

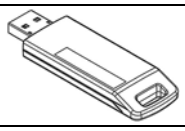
1. ポンプ

正面	背面
	

2. トランスミッタ

トランスミッタ	充電器	テストプラグ
		

3. USB アダプタ



［電撃に対する保護の程度による装着部の分類］

ポンプ及びトランスミッタ:BF 形装着部

［水の有害な浸入に対する保護の程度の分類］

ポンプ:IPX8、トランスミッタ:IP28

［電池の種類及び個数］

ポンプ:単 3 乾電池 1 個、充電器:単 4 乾電池 1 個

［原理等］

ポンプは、リザーバを一定の速度で押すことによって送液を行い、一定の速度で駆動制御することによって一定の流速を得る。

トランスミッタは、使用者の皮下組織に留置されたグルコースセンサに接続して、皮下組織間質液中のグルコース濃度を測定する。トランスミッタは充電式であり、測定値を 5 分ごとに、無線通信によってポンプに送信する。ポンプは、トランスミッタの情報を受信し、モニタにグルコース情報を表示し、保管する。

【使用目的又は効果】

ポンプはインスリンの持続皮下注入を行うため使用する。

また、ポンプは、トランスミッタから得られる間質液中のグルコース濃度を表示し、保存する機能をもつ。

本品で収集した情報は、パーソナルコンピュータ(以下「PC」という)及びインターネットを経由してサーバにアップロードすることによって、PC に表示し、保存する。

【使用方法等】

1. 併用機器

1) 本品と併用する輸液セットを以下に示す。
販売名『インスリンポンプ　注入セット』
(認証番号:225ACBZX00013000)

2) 本品と併用するリザーバを以下に示す。
販売名『パラダイム　リザーバー』(承認番号:21800BZY10166000)

3) 本品と併用するグルコースセンサを以下に示す。
販売名『メドトロニック　iPro2』(承認番号:22300BZX00435000)

取扱説明書を必ずご参照ください。

2. ポンプの基本的な使用方法

1) 使用前の準備
新しい単 3 乾電池、インスリン及び輸液セット等を準備する。

2) 初期設定
(1) 電池収納部のキャップを取り外したのち、新しい乾電池を挿入し、キャップを閉める。
(2) 言語を選択し、日時などの初期情報を設定する。

3) リザーバ及び輸液セットの接続
(1) リザーバの取扱説明書に従って、リザーバにインスリンを充てんする。
(2) 輸液セットの取扱説明書に従って、リザーバと輸液セットとを接続する。
(3) リザーバ収納部にリザーバを挿入する。
(4) 輸液セットのコネクタをロックするまで締める。
(5) ポンプを操作して、輸液セットのチューブにインスリンを充てんする。
(6) 輸液セットの取扱説明書に従って、輸液セットを身体に取り付ける。
(7) ポンプを操作して、輸液セットのカニューレにインスリンを充てんする。

4) 注入の設定
(1) メニューボタンを押す又はホーム画面の「基礎レート」から「インスリンの設定」→「基礎レートパターン設定」を選択して、基礎レートの設定を追加及び変更する。
(2) ホーム画面の「基礎レート」→「基礎レートパターン」から基礎レートパターンを選択し、注入を開始する。
(3) メニューボタンを押す又はホーム画面の「ボーラス」から「インスリンの設定」を選択して、ボーラスの設定を追加及び変更する。
(4) ホーム画面の「ボーラス」から「マニュアルボーラス」又は「プリセットボーラス」を選択し、ボーラス注入を開始する。
(5) 基礎レートの注入を一時停止する場合は、メニューボタンを押して「注入一時停止」を選択する。一時停止中は、ホーム画面が以下のように表示され、「再開」を選択すると注入が再開する。

5) イベントの入力
メニューボタンを押して「イベントマーカ」から「食事」及び「運動」などのイベントを選択し、摂取した炭水化物量や運動時間などを入力する。

3. トランスミッタの基本的な使用方法

1) トランスミッタの充電
(1) 充電器に新しい乾電池を挿入する。
(2) 充電器にトランスミッタを接続し、充電を開始する。充電中は、トランスミッタの LED が点滅する。
(3) 充電が完了すると、トランスミッタの LED が約 15～20 秒間点灯したのち消灯する。通常の場合、充電には約 8 時間を要する。

2) トランスミッタとポンプとの接続
(1) メニューボタンを押して「センサの設定」→「センサ」を選択し、「オン」にする。
(2) メニューボタンを押して「ユーティリティ」→「接続機器オプション」→「自動接続」を選択する。トランスミッタの使用前の準備ができていれば、「続行」を選択し、トランスミッタをポンプに近づけたのち、「検索」を押す。ポンプがトランスミッタを検出した場合、検出したトランスミッタのシリアル番号が表示される。
(3) トランスミッタの裏面に記載されたシリアル番号がディスプレイに表示されたシリアル番号と一致していることを確認し、「確認」を選択すると、トランスミッタとポンプとの接続が完了する。

3) トランスミッタとグルコースセンサとの接続
(1) グルコースセンサの取扱説明書に従って、グルコースセンサを挿入する。
(2) グルコースセンサにトランスミッタを接続する。トランスミッタが適切に接続され、グルコースセンサが十分に間質液を吸収していると、トランスミッタの LED が点滅する。
(3) メニューボタンを押して「センサの設定」→「センサ接続」→「新センサ使用開始」を選択すると、トランスミッタとグルコースセンサとの接続が完了する。

4) 較正
(1) 自己血糖測定器を用いて血糖値を測定する。
(2) メニューボタンを押して「センサの設定」→「センサ較正」を選択し、血糖値を入力する。「較正」を選択すると、較正が完了する。

5) トランスミッタの取り外し
(1) トランスミッタをセンサから取り外す。
(2) メニューボタンを押して「センサの設定」→「センサ」→「はい」を選択し、「オフ」にする。

6) 使用後の処理
トランスミッタにテストプラグを差し込み、清浄及び消毒する。

4. 基本的なデータの表示方法

1) ポンプのディスプレイ上の表示
(1) ポンプがトランスミッタと併用されている場合、ホーム画面に直近 3 時間のセンサグルコース値がグラフで表示される。
(2) ホーム画面でセンサグルコース値のグラフを選択するとグラフが全画面で表示され、上ボタン及び下ボタンによって最大で 24 時間のグラフを表示できる。

2) インターネットサーバへのアップロード及び PC 上の表示
(1) PC のセットアップ
PC でインターネットブラウザを開き、CareLink Personal に接続する。画面に表示された指示に従って、ユーザアカウントを作成する。
(2) インターネットサーバへのアップロード
CareLink Personal にログインし、アップロード画面を開く。USB アダプタを PC に接続し、画面に表示された指示に従って情報をインターネットサーバへアップロードする。
(3) データの表示
レポート画面を開き、表示する期間、項目及びレポートの種類などを選択する。レポート作成を実行すると、レポートの表示、印刷及び保存ができる。データを医療従事者と共有する場合は、ユーザアカウントを医療従事者に知らせる。

3) インターネットサーバからのダウンロード及び PC 上の表示
(1) PC のセットアップ
CareLink Pro を PC にインストールし立ち上げ、ログインする。グルコースの単位など、一般的な表示について設定する。
(2) 患者プロファイルの作成
患者追加ボタンをクリックすると、患者プロファイル画面が表示される。患者プロファイルの各項目を入力し、保存する。
(3) CareLink Personal とのリンク
インターネットブラウザから CareLink Personal に接続し、患者から提供されたユーザアカウントで患者のデータを表示する。CareLink Pro の患者データの同期を実行すると、患者データが CareLink Pro に読み込まれる。
(4) 患者レポートの設定及び作成
表示する期間、項目及びレポートの種類などを選択する。レポート作成を実行すると、レポートの表示、印刷及び保存ができる。

[使用方法等に関連する使用上の注意]

- ポンプ及びトランスミッタは、空港のセキュリティシステムのような一般的な電磁干渉に耐えられるように設計されている。
- ポンプは、5℃以下及び 40℃以上の温度に曝露しないこと。インスリンは 0℃で凍結し、高温で劣化する。寒い時期はポンプを暖かい衣類で覆い、体の近くに身につけること。暑い時期はポンプ及びインスリンが暖まらないように配慮すること。
- リザーバにインスリンを充てんする時は、インスリンを常温に戻してから充てんすること[冷えたままのインスリンはリザーバ及び輸液セット内の気泡を発生させる原因となる場合がある。]。
- リザーバの輸液セットとの接続部や輸液セットのリザーバとの接続部に液体が付着した場合は、使用を中止し、新しい製品に交換すること[通気孔が閉塞することによって、インスリンが過剰又は過少に注入された結果、低血糖又は高血糖になる危険性がある。]。
- 古い電池を取り外してから、10 分以内に新しい電池を挿入すること[電池が取り外されている間はインスリンは注入されず、10 分を超えると、新しい電池が挿入されるまでアラームが鳴る。]。
- 室温の電池を使用すること[冷えた電池を使用すると、電池異常のアラームが鳴る場合がある。]。
- 電池収納部のキャップは、締めすぎないこと。

- とがったものでポンプのボタンを押さないこと[ポンプが損傷する可能性がある。]。
- ボーラス注入を中断しても基礎レート注入は中断しないこと、また、基礎レート注入の一時中断を再開してもボーラス注入の一時中断は再開しないことに、注意すること。
- ボーラス注入中等、リザーバ残量低下がアラートされた場合は、注入完了後にリザーバの残量を確認すること[リザーバ内のインスリン残量が不足していると、インスリン注入不足となる可能性がある。]。
- 基礎レートを 0.025U/h、30 分間隔で設定した場合、その 30 分間隔はインスリンが注入されない可能性があるので、注意すること。
- ボーラスウィザードの計算には、本品以外の方法によって接種したインスリンは含まれないことに注意すること。
- セルフテストの実施中は、最大 2 分間インスリンの注入が一時停止することに、注意すること。
- ポンプを初めて使用する場合は、残存インスリンをクリアすること。
- 輸液セットを身体に接続している間は、リザーバに接続されているコネクタを回して外したり、締め直したりしないこと。
- 身体に接続している輸液セット内に気泡がないことを常に確認すること。気泡を確認した場合は、ポンプを取り外した後にチューブ内の気泡がなくなるまで Fill（充填）を長押しすること[気泡は不正確なインスリン注入の原因となる場合がある。]。
- ポンプを身体に装着している間は、医療従事者の指導なしで、ポンプの設定を解除しないこと。
- センサデモ画面はセンサ機能を使用した場合の例示であり、実際のデータを示していないことに注意すること。
- 「センサアラート全て」を選んだ場合、何のアラートが発生したかはアラーム履歴によって確認すること。
- ポンプの清浄には、有機溶剤及び潤滑油を使用しないこと。リザーバ収納部は、乾燥状態を保つこと。
- ローションや日焼け止め、虫除けなどの一部のスキンケア製品をポンプに付着しないようにすること。付着した場合は湿らせた布と中性石鹸ですぐに拭き取ること。[ポンプケースを損傷させる可能性がある。]
- 本品を子供の手の届く所に置かないこと[本品は小型部品を使用しているため、子供がうっかり飲み込んで窒息するおそれがある。]。
- グルコースセンサの穿刺部位に発赤、出血、疼痛、圧痛、刺激反応若しくは炎症が発生した場合又は患者に原因不明の発熱があった場合、センサを抜去すること。
- トランスミッタをグルコースセンサに接続する前に、グルコースセンサの穿刺部位に出血がないことを確認し、出血が認められたら接続しないこと[血液がトランスミッタのコネクタに入る可能性がある。]。
- 穿刺部位が出血している場合は、滅菌済ガーゼ又は清潔な布で出血が止まるまで出血箇所を押さえること。出血が止まったことを確認してから、トランスミッタをグルコースセンサに取り付けること。
- 出血が 3 分以上続く場合、グルコースセンサを抜去して廃棄し、新しいグルコースセンサを別の部位に穿刺すること。
- 使用中のセンサが損傷した場合は、自身でセンサを抜去せずに、担当医師に連絡して対応について指示を受けること。
- 新しいグルコースセンサ挿入箇所を選択するために、ローテーションスケジュールを組むこと。衣服によって締め付けられたり、かさぶたがあったり、運動中に激しく動く部位は避けること。
- トランスミッタを清浄するときは、専用のテストプラグのみを使用すること。
- テストプラグ又はグルコースセンサがトランスミッタに取り付けられている間は、ねじらないこと[トランスミッタが損傷することがある。]。
- トランスミッタにテストプラグが接続されていない状態で、トランスミッタ及びテストプラグを水などのいかなる液体にも接触させないこと[トランスミッタが損傷する可能性がある。]。
- テストプラグの O リングを清浄しないこと[テストプラグの O リングに損傷を与える可能性がある。]。
- トランスミッタは、センサと使用するたびに充電すること。
- 充電器は防水ではないため、水又は他の洗浄剤に浸さないこと。
- トランスミッタ及び充電器は、医療廃棄物容器に廃棄せず、電池の廃棄（非焼却）に関する地方条例に基づいてすること[トランスミッタ及び充電器には、焼却すると爆発する可能性のある電池が使用されている。]。
- テストプラグに血液が付着した場合は、医療廃棄物として廃棄すること。
- ポンプは強い磁場から遠ざけ、いかなる磁石にも直接接触させないこと。
- 遠隔ボーラス機能を制御できる併用機器が存在しないため、当該機能を操作しないこと。
- ポンプを落としたり損傷が疑われたりする場合は、外観にひび割れなどの損傷がないことを確認し、セルフテストを実施してポンプの作動を確認すること。ポンプの内部に水が入った場合や、誤作動が疑われる場合は使用を中止すること。[防水性が損なわれ、誤作動の要因となる可能性がある。]
- 画面が破損している、または白くなる等、判読不能の場合はポンプを使用しないこと。[ポンプに対する衝撃があると、ボタンは機能していても、画面が損傷を受けている場合がある。ポンプが偶発的にプログラムされると、高血糖または低血糖になる恐れがある。]
- ポンプの操作を行う際には、ビープ音やポンプの振動だけではなく、画面表示も必ず確認すること[ビープ音や振動のみに基づいて操作を行うとメニュー設定、メニュー選択を誤ったまま操作してしまう場合がある。]。
- 予期しないビープ音や振動があったときは、必ずポンプをチェックすること。
- ポンプのスピーカや振動が誤作動すると、音または振動による通知が行われないことがある。[イージーボーラス機能を使用中、またはポンプが手動一時停止状態の場合、通知がされずに過剰または過小のインスリン注入が起こるおそれがある。]
- 自己血糖測定を忘れないためのタイマー機能を使用する場合は、タイマー機能に加えて、携帯電話等の機器も使用すること。
- ポンプをブロックモードにしている間は、全ての機能に対して制限が加わるわけではなく、インスリン注入の一時中断は有効であることに注意すること[誤ってインスリン注入を中断した場合は高血糖及び DKA になる場合がある。]。
- ポンプを保管モードにすると残存インスリンがクリアされ、ボーラスウィザードの計算には含まれないことに、注意すること。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

1) 本品を初めて使用する場合は、医療従事者の指導を受けること。
2) 輸液セット、リザーバ及びグルコースセンサの注意事項については、それぞれの添付文書を確認すること。
3) ポンプ及びトランスミッタを強度の磁場に曝露した場合は、直ちに使用を中止すること。
4) X 線、ジアテルミー治療、CT スキャン、MRI 及び放射線に曝露される場合は、ポンプ及びトランスミッタを身体から外すこと。
5) 以下の場合を含めて、少なくとも 1 日 4 回以上は血糖値を確認し、範囲外だった場合は、必要量のインスリンが注入されていることを確認するために、本品及び輸液セットを点検すること。
   - 就寝前
   - 起床時
   - 吐き気がする場合
   - 自動車等の運転前
6) 異常な血糖値にはすぐに対処すること。
7) 重度の低血糖症状及び高血糖症状が現れた場合、並びに低血糖及び高血糖になる頻度が高くなった場合は、担当医師に連絡すること。
8) 定期的に午前 3 時の血糖値を測定すること。
9) ポンプの異常やトラブルによるインスリン注入の停止に備えて、インスリン注射用具が入った「緊急セット」を常に携帯すること。緊急セットの中身の例としては以下のものがあげられる。また、家族や友人などにその緊急セットがどこにあるかを知らせておくこと。
   - 速効性のブドウ糖錠剤
   - 血糖測定用品、尿中および血中のケトン体検査用品
   - 速効型又は超速効型インスリン及びインスリン注射器（インスリン投与量に関する主治医の先生の指示を添付）
   - 予備の輸液セット及びリザーバ
   - 予備の電池
10) 自動車等を運転するときは、その前に血糖を測定し、血糖値が 100mg/dL を上回っていることを確認すること。
11) インスリン注入を再開した時は、高血糖及び DKA を避けるため、ポンプの履歴で注入されたインスリン量を確認すること。
12) ポンプに重大なエラーが生じた場合緊急サイレンが鳴る。速やかにポンプを身体から取り外し、担当医師に連絡して指示を受けること。緊急事態の対処方法を予め担当医師と決めておくこと。

2. 相互作用

1) 併用注意(併用に注意すること)

医療機器の名称等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
磁気共鳴画像診断(MRI)装置、X 線撮影装置、コンピュータ断層撮影(CT)スキャナ、強度変調放射線治療(IMRT)、ジアテルミー	構成部品の損傷によりインスリン注入の調整不良が起き、インスリンの過量投与による重度の低血糖症のおそれや、製品の機能不良が起こるおそれがある。製品を事前に取り外すこと。	強い磁場や放射線等による構成部品の損傷

2) 使用環境における注意

(1) 無線周波数(RF)通信

本品を正しく設置・使用した場合、有害な干渉を及ぼすことはないが、本品からの高周波により、他の無線通信に干渉を及ぼす可能性がある。ラジオまたはテレビの受信に本品の電源をオン・オフにすることで干渉が確認された場合、以下の方法で干渉を抑制すること。

- 受信用アンテナの方向を変えるか設置場所を移動させる。
- 本品と受信器との間の距離を空ける。
- トランスミッタとインスリンポンプの間の距離を近づける。
- トランスミッタと干渉を受けている機器又は干渉源になっている機器との距離をはなす。

(2) 高周波

携帯電話、コードレス電話、およびワイヤレスネットワークなど高周波を使用する機器を使用している場合は、トランスミッタとインスリンポンプ間の通信が干渉を受けることがある。この干渉によって、誤ったデータが送信されたりすることはないが、これらの機器から本品を遠ざけるか機器の電源を切ることで、通信が可能になる場合がある。

(3) 静電放電(ESD)

本品は一般的なレベルの静電放電(ESD)による影響を受けないが、きわめて高レベルの静電放電に曝されるとポンプのソフトウェアがリセットされ、エラーアラームを発する場合がある。 アラームを解除した後、ポンプの日付と時刻、またその他の設定値が正しくプログラムされていることを確認すること。

3. 不具合・有害事象

1) 重大な有害事象

(1) 低血糖

低血糖(低血糖症)の発作が起こらないようにするため、日常的に以下の注意事項を守ること。

- 低血糖の症状を把握し、いかに症状が軽度であっても絶対に無視しないこと。
- 低血糖発作に備えて、速効性の糖類(キャンディー、ジュース、ブドウ糖錠剤など)を常に携帯すること。
- 血糖値が就寝時の目標値を下回る場合は、そのまま就寝しないこと。
- 主治医が処方した就寝前の補食は必ず摂取すること。

(2) 高血糖及び DKA

輸液セットの閉塞や液漏れ、インスリンの力価低下、ポンプの作動不良などが原因でインスリン注入が中止されると、2～3 時間で血糖が急激に上昇し、4～10 時間で DKA に陥る可能性がある。さらに、感染症による急性ストレスや精神的なストレスが、血糖を急上昇させ、DKA を起こす可能性がある。重度の高血糖および DKA が起こらないようにするため、日常的に以下の注意事項を守ること。

- 血糖値が 2 回続けて 250mg/dL を超えた場合、速効型又は超速効型のインスリンを注射し、1～2 時間内に再度血糖測定を行うこと。
- 血糖値が 250mg/dL を超えた場合、吐き気の最初の徴候が見られた時点でインスリンを注射し、1～2 時間内に再度血糖測定を行うこと。
- 血糖値が 250mg/dL を超えた場合又は吐き気がした場合、医師の指示に基づき、尿中及び血中のケトン体検査を行い、ケトンが陽性の場合は直ちに主治医に連絡すること。
- インスリンを注射後に血糖値が 2 回続けて 250mg/dL 以上になった場合、輸液セットを交換すること。

2) その他の不具合及び有害事象

輸液セット及びグルコースセンサの使用によって、感染症、ショック、アナフィラキシー様症状、出血、腫脹、炎症、発赤、疼痛及び痛感などの有害事象が起こる可能性がある。

【保管方法及び有効期間等】

1. 保管方法

1) ポンプ

35℃以下の室温で保管すること。
保管する場合は、6 か月ごとに新しい電池を挿入すること。

＊ 2) トランスミッタ及び充電器

−10～50℃で保管すること。トランスミッタを使用しない場合も 60 日に 1 回以上の頻度で充電を行うこと。

2. 有効期間

1) ポンプ

新しい単 3 乾電池を使用した場合の、標準的な設定で使用できる期間を下表に示す。

電池の種類	トランスミッタ併用あり	トランスミッタ併用なし
アルカリ単 3 乾電池	7 日間以上	14 日間以上
リチウム単 3 乾電池	14 日間以上	21 日間以上

2) トランスミッタ

フル充電後、標準的な設定で 6 日間使用できる。

3) 充電器(トランスミッタ用)

新しい単 4 乾電池を使用した場合、標準でトランスミッタを 40 回充電できる。

4) インスリンポンプ:48 か月

3. 耐用期間、回数(自己認証(当社データ)による)

1) トランスミッタ:12 か月
2) 充電器:244 回
3) テストプラグ:122 回

※指定の保守点検及び保管管理がされ、また標準的な使用方法で使用した場合の耐用回数

【保守・点検に係る事項】

1. 使用者による保守点検事項

1) ポンプ

取扱説明書に従って、セルフテストを実施すること。

2) トランスミッタ

取扱説明書に従って、動作確認を行うこと。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

【製造販売業者】
日本メドトロニック株式会社

【製造業者】
製造業者:メドトロニックミニメド社
Medtronic MiniMed Inc.
所在国:米国

【連絡先】
ダイアビーティス事業部 TEL:03-6430-2019